

令和6年度 学校評価報告

草加市立新田小学校
(令和7年1月27日作成)

1 学校教育目標	
生き生き元気 伸び育つ新田っ子 ～よく学ぶ子・思いやりのある子・たくましい子～	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・草加っ子の基礎・基本の習得 ・信頼され、潤いある教育活動の推進 ・主体的・対話的で深い学びの研究 ・生徒指導の充実 ・安心安全教育の推進 ・教育環境の整備 ・開かれた学校づくりの推進 	成果 ○新田中学校区の研究発表に向けての土台づくりと、授業実践を行ったことで積極的な研修が行えた。 課題 ●感染症対策を講じた上で、児童の思いや願いを生かした主体的・対話的で深い学びを充実させること。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	A	○学校経営方針に基づき、各教科・領域部会や職員会議等が円滑に行われ、限られた時間を有効活用して組織的な対応ができた。 ●校務分掌の職務内容や構成の仕方を見直し、負担の平準化によりつながるよう、組織的な対応を継続する。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	A	○新田中学校区の研究発表に向けて、適切に研究組織をつくり、授業実践と教育課程への位置づけを行うことができた。 ●教育課程へ位置づけた内容が、より児童の思いや願いを生かした展開となるよう、見直しや改善を図る。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○感染予防策を職員間で共通理解し、学校・家庭が協力して予防策を徹底できたことに加え、緩和された感染対策方針にも柔軟に対応できた。 ●災害の変化に対応したより実践的なマニュアルになるよう、見直しや訓練を実施する必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	○倫理確立委員会を定期的に開催し、情報管理・保護についての事故防止の意識の高揚を図ることができ、事故0を実現した。 ●事故0を継続するために、情報管理、施設設備管理の体制を今後も周知・徹底する必要がある。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	B	○新メールシステムの活用や学校HPの充実等のICTの活用により、学校行事等の様子を適時伝えることで、開かれた学校づくりを進めることができた。 ●少しずつ地域及び校種間の関係・交流、PTA活動が復活したので、より適切な実施方法を検討する。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	B	○人的交流が難しい中、各校・各園と協力して、幼稚園児交流や陸上部交流、作品交流などを実施できた。 ●幼保小中一貫教育をより一層充実させるための教育課程の工夫改善、実施方法の工夫が必要である。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学級で学習計画を作成し、計画的に授業を進めた。オンライン学習も併用し、出席できない児童にも対応しながら、教育課程を終えられた。 次年度も行事の実施方法の見直しによる、よりよい時数確保の方法を検討する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> タブレットやゲストティーチャーの活用等、工夫した教育計画を作成し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った学習を進めた。 見直した指導計画に基づき、思いや願いを生かした、主体的・対話的で深い学びをより充実させる。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「考え、議論する道徳」の実践に向けて校内研修を実施し、指導方法の改善、実践事例や評価方法の共有化を図り、実践力を高めることができた。 共有した実践例等を生かし、児童の道徳的実践意欲を高める指導方法を充実させること。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外国語専科教員やALT、小中連携教員と連携し、外国語指導の充実が図れた。 外国語専科教員やALT、小中連携教員を交えた授業プランの打ち合わせ時間を今後も確保する。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> 異学年交流の回数を増やし、できることを工夫して実践できた。 ICTを活用した活動方法を検討し、次年度も各種活動や行事に工夫改善を加えること
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICTや学校図書館、ゲストティーチャーの活用を充実させながら、校内研修の教科として、他教科との関連等の見直しを図り、指導計画を改善できた。 体験的な学習活動の充実化を模索する。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な生徒指導委員会開催で、中学校のさわやか相談員とも情報を共有し、組織的な対応ができた。 問題行動へ適切かつ組織的に対応するために、次年度も職員間の共通理解・共通行動を徹底する。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートの活用を継続し、家庭との連携を図ることもできた。 各種行事内容や教科指導内容を充実させ、系統的な指導体制を継続していく。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターが中心となって、個別の指導計画や支援計画の作成により一人ひとりに寄り添った指導ができた。また、関係機関と連携した指導も行った。 より適切な支援につながるよう、計画的かつ組織的な対応を継続する。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書室の環境整備や読書月間などの取組の充実、読み聞かせ活動により、図書に親しむ児童が増えた。 多読とともに精読することの大切さを知り、読み取る力のさらなる育成を図る。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> タブレットやデジタル教材活用の校内研修を実施。GIGAスクール構想に向け、指導法の改善ができた。 ICT機器を効果的に活用した指導方法の共有を図るための、研修を次年度も行う。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新田小人権教育週間を設定し、人権課題を扱ったDVD視聴で児童の人権尊重意欲を高めることができた。 児童一人ひとりに人権感覚を身につけさせるため、継続的な指導と授業開発を行い工夫改善する。

草加市立新田小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	⑬研修と修養	<ul style="list-style-type: none"> ・研修体制の確立 ・授業実践 ・校内の環境整備 ・指導計画の改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の思いや願いを生かし、「探求心・共生心・自律心」の高まりにつながる研修体制をつくり、課題意識を持って研究発表ができた。 ●発表の成果を指導計画に位置付け、より実践的なものとする事で『学び』のプロ集団の育成を図る。
	⑭開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・HP更新 ・家庭学習強化週間 ・学校運営協議会 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の様子を共有できるHPやメールシステムの活用による情報発信を行った。中学校区の取組では、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図り成果を上げた。 ●保護者・地域との連携をより強化し、子ども達の健全な育成を目指す。
	⑮豊かな心を育む教育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育 ・図書館教育 ・児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「考え、議論する」道徳の時間を中心とした、心を育てる活動を継続して行っている。図書館教育の充実により落ち着いた態度で過ごす習慣づけとなっている。また、児童会が主体となっているあいさつの取組など、自分たちで生活を改善する取組を実践している。 ●道徳教育・図書館教育・児童会活動を充実させ、主体的に生活を改善する態度を育てていきたい。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 学校HPやメールシステムを活用し、各種学校行事や学習の様子、給食の写真などの情報発信を毎日行った。
- 一部教科担任制を実施したため、学級の枠を越えて、組織的な生徒指導にもつながり、複数の教員で児童を育てることができた。
- 保護者からの相談を受けられる教育相談日の設定、また、新田中学校からさわやか相談員を招いて小中の連携を図っている「いじめ撲滅委員会」の設置で、安心安全な学校運営を目指すことができた。
- 図書室の環境整備や全校での読書活動を推進したことで、読書に意欲的に取り組む児童が増え、5年連続で10000冊以上の貸出となった。
- 新田中学校区で家庭学習強化週間を学期毎に設定し、保護者に家庭学習の意義を理解していただいた。幼少期から連続した家庭学習の習慣や、ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホを目指す「3ノーデー」の日の家族との会話時間増加を定着させることができた。

6 次年度の改善策

- 草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムを参考に、幼保小中一貫教育を推進するため情報の共有や、交流行事の実践方法の工夫、カリキュラムにおける一貫性を意識していく。また、一方で行事等の精選を図り、より効果的な一貫教育を目指す。
- 各教科・領域の学力向上プランを見直し、学校が一体となって、一人ひとりの伸びにつながる学力向上の手立てを整える。
- 各学力テストの分析とその後の授業改善を効果的に行い、児童の学力向上と教員の指導力向上を図る。
- 中学校区の研究委嘱本発表の授業実践の成果を指導計画に反映することに加え、中学校区との連携を密にして情報共有を継続し、指導法の改善を図る。